

飾り物としてのガラス器や陶磁器を見ても、きれいだ手が込んでるすごいと感心はするが、手元に置きたいとは思わない。我が家の食器戸棚は大家族でも余るほどの食器があふれでいて、必需品を置くのも大変なのである。この金魚も飾り物の部類だろうが、なぜか今も壊れることなく存在する。

民芸という考え方が大正末期に主張された。日常使いとしての機能をそこなうことなくスマートであるという品物なら使いたいと思う。中は白色で持ち手付きのコップ、ひたすらズンドーで、絵や模様なし、センス良き筋彫りぐらいいはあっていいかな、容量300立方センチメートル、野口英世さん教員でOK、なんてえ陶磁器の焼酎呑みに使えるのがあれば手に入れたいです。

色いろいろ

小学入学前、日本が白旗あげるほんの少し前、新小岩駅方向の空が赤く燃えて怖かったというのを書いた。(No.8.p2)
黒みを帯びた赤、というところだったので、似た感じの夕焼けで体を焼かれても恐れは感じない。

中学生を担任した時、修学旅行は会津・五色沼方面だった。会津近くの旅館の夜、窓近く、鮮やかで濃い緑色の木が見えた。旅館のサービスなのだろうが、初めて見る

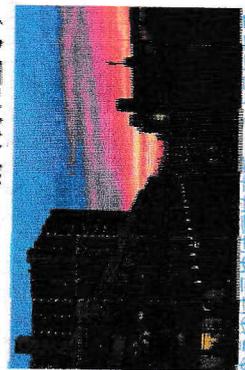
鮮やかな緑色であった。色の印象が強かったので、木の種類には注意が向かなかった。イさんと太平洋まっただ中の島でトローリングお遊びをした時、釣り人が真っ青な板切れを釣り上げた。シイラという魚であるかと教えられた。ペンキを塗ったような、という表現があるが、まったくそんなふうに見えた。ついでに触れると、トローリングやヨット遊びで、外洋で海に落ちたらこりゃダメだ、とわかった。青く塗った板があれば助かるかも。

名古屋での研修会の帰り、新幹線の海側の席から完璧に近い虹を見た。虹の橋をくぐろうと新幹線は私を運ぶ。いろいろ表現はあるだろうが、見ている時は言葉は探していない。あとになって言葉を探しても、感動することの少ない、言葉も少ない私には無理だ。

銀色に輝くススキが好きだ。カさんが、千葉県には廃寺が多い、一つ手に入れて、ススキで埋めてススキ寺にするんだ、と言った。それもいいなと思った。
ススキは野にあってこそ。花瓶に入れると、散る花穂の始末に苦労する。

碧き日、帰途、総武線から江戸川河川敷を見てなぜか詩心わいてこーしちごー

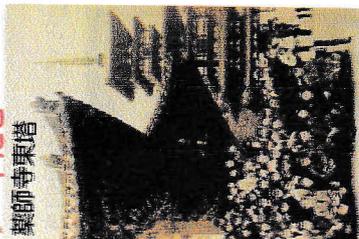
万の手のススキが招く野に立てり



ゆうやけを呼びよせてはまはまよふよくなる
2021.5.28 10:06



アートだぜ



右の塔が東塔
一見、八重に見える
ことでも有名。西の
塔は失われていたが
この写真からずっと
後に再建された。
市川高校2年11組
の撮影に扮れ込む。
左隣近く一番前が担
任で学年主任の稲田
先生。私は補助。
1968 (昭和41) / 8/17.

サグラダファミリア聖堂が人気である。奇怪な構造物としか私には見えない。とんがった建物なら薬師寺の三重塔がいい。

絵とか置物とかを飾る趣味はない。それ以前に飾っておく隙間のある住宅環境ではない。いまやゴミ屋敷、いやごみではない、生活必需品であふれかえっている。飾る余裕は無いけれど、いいなと思う物はある。先の三重塔とか杉山翠のスフィンクスを描いた日本画など。

心地よいかどうか私が私の選定基準。高校生の時、丸善で本物みたいいに凹みのある印刷画というのを見た。その中の少女の絵に琴線が触れた。小遣いはたいてわがものがものにした。教室の黒板の上に飾った。美術の時間に誰かが問

ビエナら遊びに
便えませんが、これ
は単なる置物でし
ょうか。ガラスの
ようですが、中は
ガラスドーナツ。



「なんて絵ですか」。先生は即座に答えた「ビュウティフルガール」。皆が返した「うそだー」。図鑑でめったにお目にかかれないが、ルノワールの「ルシー・ペラル嬢」(の肖像、と続いていたかもしれない) という絵であることを後に知った。

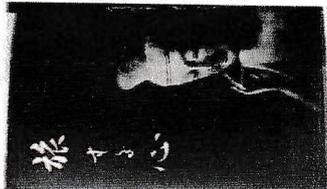
絵ではもう一つ思い出す。上野に出た時、都立美術館での公募展と言ったろうか、絵画や書の展覧会場に入っただ。デンと大きなスフィンクスの顔の絵があった。それまで並んでいたのは異質な迫力があつた。いたく感銘し気に入つた。杉山翠という名前をこの時に知った。

旅する心

私の高校の修学旅行 (1957 年) は関西方面であつた。左上と全く同じ構図の記念写真が残っている。

そのころ薬師寺は、高田好胤胤管長が伽藍の整備・復元に熱心で、市川高校にも講演に来ていた。評判通り楽しいお坊さんだった。薬師寺見学の時にも案内してくれた。

今、わが編集部のデズスタに、国宝薬師如来台座燦々唐草をデザインし



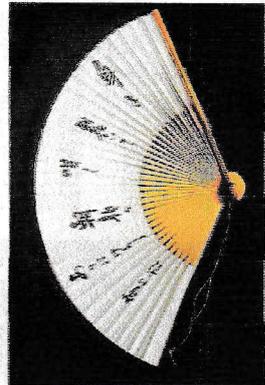
旅する心

た円形の文鎮がある。奈良薬師寺とあ
る。なぜ手元にあるのだからか。ホン
モノ感があるのではなさそう。学園を通し
ての寄進の礼品だろうか。

前ページ下写真「旅する心」は、私
の時の修学旅行案内書。私たち生徒で
編集した。表紙デザインで提案した。
広隆寺の弥勒菩薩像の横顔を使った
い、バックを黒一色にした。印刷屋
に可能か尋ねた。出来た。自身の編集
を含めて、編集委員長としての私の秘
かな自信作である。題字はA組担任の
能村登四郎先生。私はD組。

お寺や仏像については、修学旅行の
予備知識として行われた美術の授業で
初めて知った。

当時の私には、寺院や仏像は宗教と
は関係なく、単に見る物、観賞するも
のにすぎなかった。年とって、宗教の
ことを少し知るようになる。少し違
った感じを受ける。それが何なのか、
わからない。



身を裂いて咲く朝顔のありにけり 登四郎

中学3年間のクラス担任だった能村
登四郎先生は俳人だった。職員として
同僚になつてからだが、何かのお祝い

のお返しに扇子を頂いた。大勢に渡す
ために用意された物なので印刷が大
切にしている。

将棋の棋士がご褒美にこういう扇子
を渡すのを見ることがある。その場で
書き込んでいたが、出来上っている扇
子にあとから書き込むのはむずかしい
だろう。

別の同僚に書家がいる。森本龍伯さ
ん。個展を見に行つてはがき大
の作品が気に入
り、価格も手ご
ろなので購入し
た。個展のあと
で、立派な額装
で渡された。

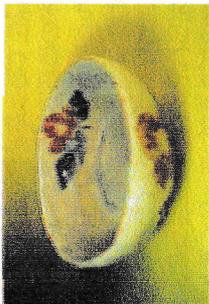
書は、小学生
の時に塾に通つ
たことがあるの
で、少しばかり
見ることもあつたが、正直言つて退屈
だ。絵画のように表現することが行な
われているが、申し訳ないが面白くな
い。森本さんのこのような字が私には
分かりやすく快い。

この額は父が見ることのできる所に
架けた。父はこの字の下で人生を終え
た。

小とんじり

義母が老人クラブで陶芸をしている
とて、作品を見せってくれた。ご飯茶碗
の大きいのが欲しいと思つていた時な
ので製作希望した。器を二つと箸置き
幾つかをプレゼントしてくれた。

その器の一つが次の写真。ひびが入



っている所も含めて気に入っているの
で、茶碗やおかず入れややらにと重宝
している。

陶磁器を作る所を紹介するテレビ番
組が好きでよく見る。陶磁器そのもの
はそれほど好きではない。ヘンにへこ
ましたりひつつかいたりした物より、す
まんなりシヤンとしているのを好ましく
感じる。花だのなんだかわからないも
のが描いてあるものより、ただ黒いと
か白黒二色とかで、形は、コップ！
おさら！ みたいなのシンブルなのが
いい。扱いが困難そうだったり、洗うの
に苦労しそうなものは一番最初に落選
です。

洗うのが大変だつながらで、市川学
園の新聞館を思い出した。設計の段
階では考え及ばなかったが、完成して
から気づいたのが、閲覧室の南面の窓
ガラスの掃除の事。天井は普通教室の
倍以上の高さがある。日差しを取り入
れるために天井近くまで窓になってい
る。窓ふきをどうするか。下の方は何
とかなる。問題は上の部分。ついでに
天井にぶら下げる蛍光灯も指輪してお
こう。取り換えは誰がどうやるのか。
アートだなという建物がある。壁全
面ガラスとこのや、壁面は、平らで
なくざらざらさせたり模様を彫りつけ

たりしたのがある。壁の凹凸はほこり
がたまりやすそう。掃除はどようす
のか。ガラスがききは誰がやるのか。

新聞館では蛍光灯取り換え用に、
特大の伸縮可能な脚立を買つてもらつ
た。当時は鉄製のものしかなく、重く
て扱いにくかった。

超長いホースも用意してもらつた。
ベランダから窓に水を叩きつけて外側
の汚れはこれでなんとかなるだろうと
いうわけだ。

新機軸、新理念の住まいやビジネス
ビルも結構だが、私にははやく、窓掃除
や天上の照明管理のことが気になる。

内部の壁、仕切り無しという住まい
が紹介されていた。アイデアとしては
理解できるが、実際に作つて暮らした
という。お前に上げると言われても断
る。トイレのドアも無いとはとんでも
ない建物だ。案の定、子どもが青つと
いやがられ、壁・ドアがつけられた、
と紹介されていた。

注文住宅の場合は、周りでとやかく
言う話ではない。私には家を持つとい
う願望がない。

金魚

義母が店を開いた。若者受けするよ
うな雑貨が並ぶ。友人の作品だとい
うガラスの小さい器があつた。表面に昆
虫や魚を彫り込んだりある。器そのもの
がその友人の自作かどうかわからない。
可愛い絵のものがあつた。トンボだつた
かカエルだつたか。開店祝を兼ねて選
んだが、売約済みとのことで、次に気
に入つた金魚にした。小さい器で、私
には使い道がない。たまご乗せか？